細江カトリック教会だより　４月号

〒750-0016　下関市細江町 1-9-15　083-222-2294　083-222-0970
ホームページ　http://hosoechurch.sakura.ne.jp

復活祭を迎えるにあたって

今年の復活祭は、忘れることのできない特別な復活祭になるでしょう。教区によっては、聖週間の典礼もなく、さびしい過越祭を味わうことを余儀なくされた方々もいれば、およそ一月ぶりにミサに与る喜びを味わう方もあるでしょう。典礼に与ることができても、いつもとは違う、簡略化された式であったり、感染の不安の拭えない参加だったりするかもしれません。

日本だけでなく、世界を覆う新型コロナウィルスの感染による影響は、わたしたちの生活の様々な面に現れて来ており、しかも、有効な治療薬が開発されないまま、長期戦を強いられることが見込まれています。折も折、教会では四旬節を過ごし、復活祭に備える時期ですが、ひょっとしたら復活祭自体も共同体としてお祝いできなくなるかもしれません。昔、イスラエルの民が、エジプトの圧制から解放され、約束の地に向かう途中、砂漠で４０年も過ごさなければならなかったことを思い出します。いつまで、どうして、このような場所で日々を過ごさなければならないのか、イスラエルの民の疑問と悩みが他人事ではないように感じられます。

キリスト教信仰の核心にある復活への信仰は、人となられた神の子、イエス・キリストが十字架上で亡くなられ、三日後に復活されたことを記念するだけでなく、イエスを復活させられた御父の力、そして、復活されたイエスの霊が今も教会の中に生き、働いておられ、この世の完成まで導いてくださることへの信仰です。苦しみを通って栄光に上げられ、信じる人々を神のいのちに与らせてくださる方への信仰です。その過越しの神秘にわたしたち、教会に集う者は皆典礼を通して参加するよう招かれています。

今回、この大きな神秘をともに祝い、ミサの中で、ともにみ言葉を聞き、主の御体をいただいて、賛美と感謝をささげ、信仰生活を生きるためのいやしと力の恵みをいただくことができないとすれば、それはとても辛いことですが、イスラエルの人々が砂漠の生活の間、経験した苦しみに心を合わせて祈りましょう。主が、お望みの時に、そのお恵みを、見える形で、ともに味わうことができる日を待ち望みながら。そして、この感染症に苦しむ方々、その治療のために、日夜苦労しておられる方々、治療薬の開発のために研究の労を捧げている方々に、主の支えと導きが与えられ、感染症の脅威が一日も早く終息するようお祈りいたしましょう。

作道　宗三　神父

＊挿絵は
「復活したイエス・キリストがマグダラのマリアに現れる」アレクサンドル・アンドレイエヴィチ・イワノフ作

地区だより　Ⅰ

暁の星の丘の上に３８年前に建てていただいたマリアさまが立っています。子どもたちは、朝、帰りと手を合わせて祈っています。

ある日、帰りに「みんな、マリア様に祈るよ！！」と言う、年少の女の子の声をワクワクして聞いていると「さんはい。南無阿弥陀仏」と、思わず吹き出しました。神父様に話すとマリアさまも喜んでいるね。と・・・そんな可愛い小さな生命、これから未来へ向かうのに手をかざせば、水がでたりドアが開く、そんな便利さでなく、神さまからいただいた体、手や足や心をつかえるような
～いのち～を育てることかなと思います。

これからもマリアさまに祈ります。「アヴェ・マリア」と。

三上しのぶ

広島カテキスタ養成研修生の声

第一期を終えて

2018 年 5 月より、広島教区の新しい要理教育の方針により、教会学校や入門講座に携わる人たちを教区全体で養成することとなりました。私はその実務スタッフとして研修者の皆さんとともに受講してきました。90 分授業 6 回、60 分の分かち合い 5 回、ミサ 2 回、朝夕の祈り 2 回を含む 2 泊 3 日の研修を年 4 回、2 年で修了という、かなりのハードスケジュールです。この研修そのものが新しい試みですので、そのつど反省会を行い、研修者にはアンケートや感想文を提出していただき、その結果を実践に反映させながら改善することを繰り返しています。これからも研修体制を整えるための試行錯誤が続くことでしょう。常に信徒と司祭のお互いの協力によるより良い教会共同体づくりを目指し、希望と期待をもって私らしくこの任命に応えていきたいと思います。

2020 年 5 月より第 2 期生 6 名に、新たに第 3 期生 8 名を迎えて研修が始まり、教義の基礎知識、霊性、典礼を学びます。新しい要理教育を担うカテキスタの役割は、まだ各教会の中で十分に認知されておりませんが、小教区活性化の一助となるよう、その存在をどのように活かしていくかは今後の課題です。徐々にこの研修への関心が高まり、様々な立場の新しいメンバーが増えていくことを願います。

塩谷　朋子

カテキスタ 400 年の計？

養成研修会での、白浜司教の「創造の業は現在進行形」という言葉に、自分は今ここで神の創造の途上にいるのだと感動しました。

中村神父の「イエスの受難とは、やられっぱなしなのではなく、自ら引き受ける覚悟を示している。十字架を背負わされるのではなく、自ら担うのです」、百瀬神父の「聖書を知識ではなく自分自身が生きている自分の物語とする」という言葉も、私の背中を半々歩押してくれました（自信を持って一歩とは言えませんが）。

しかし、キリストの手足として、子どもたち、教会に来たばかりの人、来ない人を相手にしっかりとした基礎知識を身につけ、人の立場に立ってよく聴き、一人一人と心を込めて関わる。目に見える成功を求めない。ありのままに分かち合う心を持つ等々、そうなるには

40 年どころか 400 年はさまようことになりそうです。さまよいながら寄り添うことができるようにと心がけるばかりです。

ところで、未信者の妻が「カテキスタになったらどうなるん？」と聞くので、脅かしてやろうと真顔で「宣教のため、岡山の離島に一年間派遣される」と言ったら、本当に心からうれしそうに「まあ！単身赴任や！一年おらんのや！その後はどこへ行くん？どこへ！（笑）」　ああ～、カテキスタにも愛される夫にも、なるのは大変ですよ。

三井 正憲

天使幼稚園を退職しました！

3 月で天使幼稚園を退職しました。常勤で 3 年、非常勤で 2 年、あっという間の 5 年間でした。大学生相手から小さな子ども相手に。最初は言葉遣いなどにとまどいもありましたが、毎日子どもたちの笑顔に支えられ、とても楽しく過ごさせていただきました。

日曜日だけ教会に通っていた私にとって、教会と共にある幼稚園なのに、知らない事だらけでした。ホールや聖堂も幼稚園児が過ごすことが多々あります。前もって教会と相談して日程を決めていても、葬儀など予測できないことが入ると幼稚園も急遽予定を変更しなければなりません。敷地の狭い幼稚園ですから、場所の変更も簡単にはいきません。その日無理なら日程も考えなくてはなりません。場合によっては保護者に大急ぎで連絡をとったり、大慌てなのです。教会と共にある幼稚園、一方向からだけ物事を見ていてはいけないなあと、感じさせられました。逆に、幼稚園も教会の方にたくさんご協力いただいています。暑い日の草取り、運動会などの来客のご案内、カトリックセンター―のトイレ使用などなど。これからもお互いに協力し合うことができれば、もっともっと積極的に関わることができればと思います。

最後に、主日のミサと十字架の道行きくらいしか聖堂に行っていなかった私ですが、幼稚園で過ごすようになり、それ以外に幼稚園の行事、一人でオルガンの練習、お祈り、と聖堂に足を運ぶことが増えました。その時々に今まで体験したことのない聖堂の雰囲気がありました。いつも優しくあたたかく迎え入れてくれるのですが、それぞれに神さまの眼差しが違うような・・・。

ありがとうございました。

林 裕子

＊幼稚園児が描いてくれた裕子さんの似顔絵。

新型コロナウイルス関連記事

・・・新型コロナウイルス感染拡大のただ中で・・・

司教団が認可した「新型コロナウイルス感染症に苦しむ世界のための祈り」を共に祈りましょう。

いつくしみ深い神よ、
新型コロナウイルスの感染拡大によって、今、大きな困難の中にある世界を顧みてください。

病に苦しむ人に必要な医療が施され、感染の終息に向けて取り組むすべての人、医療従事者、病者に寄り添う人の健康がまもられますように。

亡くなった人が永遠のみ国に迎え入れられ、尽きることのない安らぎに満

たされますように。
不安と混乱に直面しているすべての人に支援の手が差し伸べられますように。
　希望の源である神よ、わたしたちが感染拡大を防ぐための犠牲を惜しまず、世界のすべての人と助け合って、この危機を乗り越えることができるようお導きください、わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。
　希望と慰めのよりどころである聖マリア、苦難のうちにあるわたしたちのためにお祈りください。

～信仰生活を見つめ直す～

　新型コロナウイルスの感染拡大の予防と阻止のために種々の分野の活動が制約されて不自由な生活を余儀なくされていますが、そのような中で多くの人たちが家庭生活、人間関係や自然との関係について新しい気づきや発見をしていることは注目に値することだと思います。

　信仰生活について言えば、**主日のミサが中止になることで、あらためて主日のミサの意味を考え、ありがたさを噛みしめている**方もおられるのではないでしょうか。実際、「日曜日は週ごとに巡ってくる復活祭であり、キリストが罪と死に打ち勝ったこと、キリストにおいて第一の創造が完成したこと、そして『新しい創造が始まったこと』(二コリント 5-17 参照）が祝われます。
この日は、感謝に満ちた礼拝（ミサ）を行って、世界が作られた最初の日を思い起す日です。また、キリストが栄光のうちに来られ（使徒言行録 1-11；一テサロニケ 4-13～17 参照）、すべてのものが新しくされる（黙示録 21-5 参照）『終わりの日』を、熱烈な希望をもって待ち望む日です」。(聖ヨハネ・パウロ二世教皇使徒的勧告『主の日―日曜日の重要性』)主の日に感謝の祭儀に参加して、神のことばを聴き、キリストの死と復活の出来事を追体験し、その恵みとしてキリストご自身をいただくことは、キリスト信者として神の恵みへの当然の応えであり、この上ない幸せなことなのです。しかしミサには不特定多数の人が参加するので、中止あるいは制限付きとなっても、神のみ旨を探し求めつつ受け入れなければなりません。

　他方、感謝の祭儀で出会うキリストは、わたしたちが皆キリストを中心につながっていることを思い起させ、ご自分と同じようにわたしたちが慈しみのこころをもってほかの人を愛するために共にいてくださいます。特に今回のような窮状にあるときこそ、その慈しみのこころが発揮されるはずです。自分のいのちの安全だけを考えるのではなく、他のすべての人々のいのちをこころにかけて、適切な行動をとるようにしましょう。感染した方々に対して決して避難や差別などの言動に走ることのないように注意し、むしろかれらに寄り添う気持ちを大切にし、回復のために祈りましょう。

日本カトリック司教協議会会長
高見三明大司教　談話より

聖週間～の典礼は・・・
広島司教区「平和の使徒推進本部」
YouTube ライブ・チャンネル
（https://youtu.be/rrtmoekHcDU）
にて世界平和記念聖堂での典礼中継を見て、霊的に参加することができます。
（ミサの中継）
4 月 9 日～11 日
　聖なる三日間　19：00
4 月 12 日
　復活の主日のミサ　9:30